



幼児生活の記録の 記入についての研究

お茶の水女子大學幼稚園

文部省に於ても、幼児指導要録研究會が設けられ、既に試案が本誌九月號にも掲載されておりあります。その他にも幼児指導要領の試案成案は今までもいろいろありましよう。

指導要録を正しく記入するということは、吾々のたづさわつてゐる保育の成果について、改めて考えてみると共に、其の反省をし、又幼児時代特有の心身の發達狀況、幼児の性格興味・能力を知る意味に於て、大切なこと、是非ともしなればならない事だと思ひます。

さて、それは定められた項目の一つ一つについて、一人々々の子供について考へながら、一年の終りに記入するわけですが、同一項目でも、記入する人により又其の時の氣持により判定の標準の違ふことがあり得ます。其の上、多くの子供について、記入している間に、單に頭の中にだけおいた基準だけですと、一番先と、あとでは幾らかのくるいを出さないでもありません。それで、それについてのしつかりした判定基準の着目點をきめておく必要を感じます。

勿論文部省のものが公布されることになれば、その解説というものが示されることゝ思いますが、その前に、研究としてお茶の水女子大學主催の認定講習「兒童心理」の時間に、牛島教授を中心に、講習生一同が數班に分れ、假に東京都公立幼稚園試案の「幼児の生活の記録」の一部分

- 友達とよく遊ぶ。
- 他人を認め自己を主張する。
- 自分より小さい者をいたわる。
- 責任を重んずる。
- 禮儀が正しい。
- きまりを理解して守る。
- 安定感がある。
- 自發性がさかんである。
- 日常の習慣がよい。

の九項目につき、それ／＼考究討議し、その結果を逐一牛島先生に細かく御批評頂きました。皆いろいろ苦心しました

が、九項目の中でも、讀んだだけでは一寸手のつけにくい、「安定感がある」という項では、この抽象的な事柄の急所をとらえ、其の表現もよくできて居ると、牛島先生からおほめを頂いて得意になつたこともありました。

次に一つ一つについてあげてゆきますが、先づそれ／＼の項目について、どういう内容からみてゆくかを、「要素」としてあげ、次にその出てくる『場面』を考え、それを測るのに第一に普通の場合を零とし、兩端を十——に其の間を十一——としました。

こゝで一寸「要素」「場面」ということについてあげてみますと、

「要素」とは、幼児の生活の中で、どの子供でも経験する共通した根本的なものをいゝます。

「場面」とは、幼児の行動のよく表われている場面をいうのですが、それを二つの方面から考えました。一つは、普通よく起る場合、一つは普通の状態では本來の性質がつかぬ、何か起つた場合に、生來の態度が表われるので、そういう危機的な場合を考えてみました。

項目第一 友達とよく遊ぶ

〔要素〕

他人に對する關心

教師、友人、他人を好み、又、教師、友人、他人から好かれる。

實際の範圍と親切さ

人なつこさ

〔場面〕

遊び、集團遊び

他のグループと接觸する場合

未知の人（新入生、同年輩の者、年上年下の子供）

〔尺度〕

(+2)

他の子供にきらわれている子供、よく知らない子供、ぼんやりとしていて皆に相手にされない子供などの、どんな人にも親切でよく一緒に遊ぶ。

又人に好かれている。

人のよいところを認め、新入生と誰れよりも早く仲良くなり、誰とでも協力し、人のめんどうをみる。

(+1)

殆んどの人とよく遊び、多くの人に親切であるが、好きな人はかまわない。大抵の人を好むが全部ではない。

(0)

友達の数是比较的多い。自分の好まない仲間や個人とは遊ばない事がある。

自分の仲間からは好かれる。大體自分の仲間だけに親切である。

(-1)

少數の友達とは遊ぶが、そんなに親しくは遊ばない。新しい友達を作つたり、他の組に仲間入りする事は殆ど

ない。多くの者から嫌われるか、或いは無視される。
自分の都合のよい時だけは親切である。

(2)

グループに参加する事が殆どない。

いつも人から無視されている。

無口で表情がなく、身近の者の他、友達の親愛に對して無反應である。

項目第二 他人をみとめ自己を主張する

〔要素〕

他人の立場を尊重し、自己を發表する。

自己の意見を固執しないで、他と協力する。

不正に對して正しい主張をする。

他人の缺點や、過失をとがめない。

自己の缺點や過失を注意された場合は、素直に聞き入れる。

〔場面〕

自由な遊び

集團的な遊び

發表遊び

一つの事を皆が一緒にする場合

争いが起つた場合

自己の要求が通らなかつた場合

友達が過失した場合

注意をうけた場合

〔尺度〕

(+2)

人の意見を受け入れ、しかも進んで自己の意見や要求をはつきり話す。

自分勝手をしない。友達と仲よくする。

よいこと、悪いことを正しく判断する。

人のあやまちを笑つたりとがめたりしない。

自分のあやまちを注意された場合、素直にきき入れる。

(+1)

大體人の意見をきき入れる。自己の意見や要求も話す。

殆ど自分勝手をしない。友達とも仲よく出来る。

善い悪いの判断も大體出来る。

あやまればゆるす。大抵の注意はきき入れる。

(0)

自己の意見や要求を固執するが、人の意見はその割に聞かない。

自分勝手なこともあるが、すぐ仲直りが出来る。

なか／＼分らない點が多いが、よく云いきかせれば理解する。

(-1)

自分の好きな人に對しては意見も聞き、仲良くも出来るが、自分勝手に流れ易い。

あやまちも人によつては許す。

注意も時には聞く事が出来る。

(-2)

人の意見を全然聞かない、自己の意見や要求だけを云い張る。

友達と仲良く出来ない。

よい悪いの判断が出来ない。

人のあやまちをとがめる。

注意されても聞き入れない。

自分の意見を持たず、人の云いなりになる。

項目第三 自分より小さいものをいたわる

〔要素〕

小さい子に對する關心

小さい子に對してはわり好かれること。

親切・人なつこさ。

言語的・態度的表現能力。

劣等感を持つていない

〔場面〕

遊び・共同作業・家庭に於て。

他のグループ・年長組・年少組との接觸

未知の人(新人園児等)

〔尺度〕

(+2)

自分の利害を考えないで、進んで小さい子を親切にいたわつてあげられる。

遊具等進んで先に貸してあげる。

誰彼の區別なく、遊びの仲間に入れてあげる。

おせつかいでなく、お仕事を進んで終りまでみてあげる。

新しい子供もすぐ仲良くしてあげる。

小さい子の要求に對しては、進んで満足させるよう努力する。

いたすらしても怒らず許してあげる。

家庭においても同様

(+1)

殆んどの子供に對しては親切であるが特に嫌な子に對しては無關心である。

小さい子に何か頼まれるとして上げる。

ままごとには何時も入れるが、かけっこには早い子、よくやれる子だけを入れる等。

新らしい子供は少し觀察してから仲良くする。

小さい者の要求を先生に知らせる。

(0)

自分のその時の感情によつて、いたわる時もあれば、いたわらない時もある。

積極的にいたわることをしない。

遊びの時も作業の時も、其の時の感情によつて、仲間に入れたり入れなかつたりする。

新らしい子に興味はもつが、進んで遊ぼうとしない。

(-1)

殆んど無關心で、時によりいじわるをする。

嫌いな子とは一緒に遊ばず、感情のいら立っている時は邪魔にする。

特に好きな子供とは一緒に作業したり、遊んだりする事もある。

幼稚園では小さい子をいたわるが、家庭に於ては暴君であり弟・妹をいじめる。

(12)

むやみにいじわるをしたり、困らせたりして自己満足をしている。

家庭に於ても弟妹をいじめていばつてゐる。

砂場や積木でお友達で作つた色々なものをわざとこわして得意になる。

小さい子が側にくると、邪魔にして遊びにも入れない。

與えられた作業もせず他人の邪魔をする。

家庭に於ては、弟妹の面倒をみず、いじめて面白がる。

項目第四 責任を重んずる

〔要素〕

任務に對する自覺・忠實さ・積極性。

過失に對する責任感

責任轉嫁をしない。

〔場面〕

約束、御手傳い・共同作業

仕事が困難になつた場合。

いやな仕事の場合。

失敗した場合。

先生の見てゐる時、しない時。

他に興味が起つた場合。

〔尺度〕

(+2)

言われない仕事、與えられた仕事を進んで最後まできちんとする。

先生の見てゐる見えていないに拘らずする。

他に興味が生じた場合、我慢して與えられた仕事をつづける。

上手に出来ても出来なくても、ありのままを報告する。

あやまちを認め、人のせいにならない。

(+1)

云われないことでも時にはすることがある。

與えられた仕事はよくし、困難の場合でもすぐには放棄しない。

他に興味が生じた場合、その方に移り易い。

(0)

與えられた仕事は大體果す。

先生がみてゐる方が、與えられた仕事をよくする。

仕事が困難になつた場合、他に興味が生じた場合、放棄する。

あやまちを一應は人のせいにする。

(-1)

困難な事、いやなことはさけたがる。
先生が見ていない時は、全然しない。

人に云われたことは、興味があれば聞きのがす。
何かといえは、云譯ばかりする。

(2)

與えられた仕事でも無視する。

物事をするのに、いつも人をあてにしている。

失敗を他人のせいにする。

項目第五 禮儀が正しい

〔要素〕

言語・動作・容姿

親切である事(誠意・思いやり)

他人の人格を尊重する。(如何なる地位・身分・年齢・職業・又は外見上の形式的な如何なるもの・容貌・風采態度其の他にとられずに。人間である事・自己と全く同様の・自然より發生した一個の魂であることに驚異と敬虔の念を持つこと・そして他人の能力、才能、體驗等を率直に認め、之を尊敬する)

〔場面〕

遊び(話し合い) 食事・お仕事・ご挨拶。

先生や年長者に對する態度。

お友達及び年少者に對する態度。

馴れ親しんだ場合。

興奮した場合。

優越の地位におかれた場合。
劣等の地位におかれた場合。

かけて他人に行動する場合。

共同で行動する場合。

〔尺度〕

(2)

先生の前でもお家でも、言語動作が幼児らしく(朗らか

で無邪氣) 挨拶も忘れないし、容姿が亂れた場合直す事

も試みる。初對面の人にも不快を與えない。

誰にでも思いやり深く親切である。

召使や物賣りも馬鹿にしない。

お友達にかりたものは、大切にしてみちんと返す。

ブランコの順番などちゃんと守る。

不具な人でもいたわる。

お友達製作物等を大切に作る。

(1)

大體の場合、言語動作が幼児らしく。

① 素直である。

② 挨拶も消極的ながら出来る。

③ 容姿が亂れた時、直ちに直すことを要求してくる。

人の立場を理解する事が出来る。

遊び道具等皆で分けて使う。

(0)

大體に於て言語動作に缺點はないが、時によりむらがあ

る。

自分に氣に入つた人には親切であるが、氣に入らぬ人には不親切である。

他人のものは大切にする。

他人が、氣持わるがるような事をしない。

(1)

言語動作がいくら粗暴である。

① 又は自分の感情を行動にはつきり表現できない。

② 時として他人を困らせる。

③ 容姿が亂れていても氣にしない。

他人の不幸に思いやりがなく、無關心である。

遊び道具等自分のほしいものは、他人をおしのけても取る。

自分の製作物は大切に使うが、他人のものはどうなつてもかまわない。

人によつて遊んだり、遊ばなかつたり、大切にしたり、いじわるをしたりする。

(2)

言語動作が粗暴である。

自分さえよければ、他人の事はかまわない。

わざ／＼他人を困らせる様なことをして喜ぶ。

優位の時は横暴でいばるが、劣等の地位の時は卑屈である。

他人の大切にしているものをけなしたり、こわしたりする。

る。

皆が静かにお話やお仕事をしている時、わざと大聲を出したり、大きな音を立てたりする。

「よい場所」等、他人をおしのけても無茶苦茶にとる。

先生やお母様の云うなりにおじぎばかりしている。

先生やお母様の前でだけ「よい子」で、蔭で人をいじめたりする。

項目第六 きままりを理解して守る

〔要素〕

きままり（遊び方のきままり。手洗の時。食事のときのきままり。友達との約束。特に約束したきままり。）の必要性がわかること。

きままりを守れること

〔場面〕

幼稚園生活……自由遊び、集團行動。

家庭生活・交通・公衆衛生。

きままりどおりになると、面白くなかつたり、めんどうなつたりする場合。何かに夢中になつている場合。

他人からさそわれたり、おだてられたりした場合。

〔尺度〕

(+2)

きままりの必要はよく分つて、すゝんでこれを守ろうとする。

きままりの爲には、自分の興味をおさえることが出来る。

(+1)

きまりの必要がわかつて、すなおにこれを守ろうとする夢中になつたり、一人になつたりすると守れないことがある。

(0)

大體きまりを守る。自分に都合が悪いと、きまりを守らない事がある。

(-1)

きまりを守らない事が多く、守つてもいや／＼従つてゐる。

じきに刺激に負けて、きまりを破る。

(-2)

きまりのある事がよく分らないで、殆どきまりを守れない。

項目第七 安定感がある

〔要素〕

どのお友達とも仲よく遊び、皆に慕われているという信頼感を持つてゐる。

どのお友達も、自分と一語にすることを喜んでゐると思ふ、要求されてゐる感じ。

先生やお友達にほめられて、良い子であると思ひ、眞價を認められてゐる感じ。

何でも出来ると思つてゐる、自信ある感じ。

にこ／＼と氣嫌よく幸福そうである(安堵感を持つてゐる)

〔場面〕

登園の時、自由遊び、遊戯、お集りの時、共同製作、生活発表、幼稚園の行き歸り。

〔尺度〕

(+2)

正義感を持つていて、弱い子供からたよられ、いじめられた時や困つた時にたのまれると、それに應じて相手を止めさせてくれる。

繪や仕事にすぐれてゐる爲に、皆の信頼を集め、常に指導的地位を持つてゐる。

新しい仕事や、始めての経験に遇つても憶せず、積極的にやり、一人でもお歌やお話もやる。

良い意見を出し、多勢の中で仲好く相談をすゝめてゆく。云いつけ口をしない。

お話しを聞く時、靜かに聞き、良く理解する。

どのお友達も近くに坐りたがり、遊びたがる。

こちらからけんかを仕掛た事が無い、仕掛てもけんかにならない。

(+1)

皆に好まれて誰とでも遊ぶが、何となく個人的である。意見も認められるし、繪や歌も相當出来るし、自分が認められてゐると云う楽しい感じを持つてゐるが、人に及

出す影響力はない。

皆に好かれてはいるし、人氣もあるが主役にはならない。

生活發表が出来る。

始めての事も安易にやる事が出来る。

出来なくても大して騒がない。

(0)

皆から特に選ばれて遊んだりする事はないが、遊び仲間に入つてもまらわれる事はない。

全體からはあまり問題にされてはいないけれど、特定の御友達(近所の人・御歸り仲間)からはしたわれている。

お得意のものをする時には、大いに自信を持つてするがそうでない時はしりごみをして、出来ることだけをやりたがる。

始めての経験は恐る／＼手を出すか、一度失敗すると二度と仕様としないが、成功すると得意になつて又やりたがる。

(1)

特定のお友達とは遊んでいるが、お休みしても誰もが気が付かない存在。

先生と餘りお話しをしない。先生や大人を何となく恐れ
ている。

前にしたことはするが、新しい事は容易にしない。
出来ないいと泣き出すか止めてしまう。

(2)

大抵一人で居て誰も遊ばない。遊びがはつきりしてない。さそわれても皆についてゆかれない。

繪畫やお話の様な、どの幼児も興味を持つものに興味がうすく、すぐいたずらをする。

新しい事や始めての事には、手をつけないか、全然目茶苦茶にするか、泣き出す。

話や場の空氣を理解出来ない。

項目第八 自發性がさかんである

〔要素〕

興味。

依頼心がない

他から、強いられる事なく、自分でしようとする力。

發表力・創意力・實行力・臨機性。

〔場面〕

自由あそび・歌・リズム・おはなし・製作・繪畫・觀察
ごっこ遊び・劇あそび・集團あそび。

自分の考えを他人の前で發表する場合。

集團の中の誰かに仕事を要求した場合。

一つの仕事や遊びにあきた場合。

物事を新しく始める場合。

必要に迫られた場合。

〔尺度〕

(+) (2)

何時、どんな場所でも物事に興味をもつて進んで自分からしようとする。

他人に依頼せず、自分で考えて事をしようとする。

(+1)

餘り他人に頼らないで、大抵のことは自分で考えてしようとする。

(0)

自分から進んでする事もあるが、誘われてする時もある

(-1)

助けられないと仕事をしない。

家庭ではするか、幼稚園ではしない。

(-2)

總ての事に興味を持たず、何もしようとしなす。

項自第九 日常の習慣がよい

〔要素〕

衛生に注意する。

規則正しい生活をする。

勤勞を喜ぶ。

物を大切にする。

〔場面〕

日常生活（就床・睡眠・起床・洗面・用便の場合・食事
間食の場合・遊ぶ時片附ける時・自分の玩具・所持品・
クレヨン等用品を用いる時・公共の遊具、玩具、備品を
使う時・お小使を使う時・道路を歩く時・朝登園の身仕

度をする場合）

〔尺度〕

(+2)

就寝・起床・食事・用便は大體きまつた時間に一人で出来る。

洗面・朝晩登園等の身支度がいつも自分で出来る。

何んでも喜んでたべる。箸で上手に、大體きまつた量を

たべる。

はななみ・手洗い・用便が一人で清潔に出来る。

身體・衣服・所持品等いつも清潔にしている。

公共のものも、自分のものも大切に取扱ひむだづかいし

ない。

お手傳を進んで喜んでする。

はつきり返事が出来る。

一人で登園出来、右側通行、信號を守り道草をしない。

何時も遊びの後片附が出来る。

(+1)

日常生活が大體自分で出来るが、時々忘れる。

一人で登園する。

云われると後片附をする。

大體清潔・自分のものは大事にする。

お手傳する。

お金や物のむだづかきを餘りしない。

をすることである。

以上は健康について幼稚園、先生、幼児のすべき三つの立場について考えてみたのであるが、これらの實行の面では家庭の協力によらなくては、出来ないものであるから家庭の協力について考えて見ることにする。

健康について家庭の協力

今日の新しい保育では健康第一であること。何故に幼稚園殊に年少幼児については、特に健康保育に幼稚園が重點をおいているかの點については、保護者の理解と協力を求めるべきである。幼児期にあつては身體的發育の旺盛なる時期である爲にこの期において充分の發育をはかることが何よりも第一にする目標であつて、健康の爲のよき習慣、手洗い、うがい、爪を切ること、鼻汁をかむこと、用便、偏食、厚着等は幼稚園の數時間の生活よりもむしろ家庭における生活時間の多い間によりよき習慣がつけられるのであるからこの點について保護者の理解と協力を望むのである。

このためには新入園直後に於て保護者會或はPTAの集りによつて健康のための保育の重要性、健康のためのよき習慣への協力の説明をすると同時に、園醫など、その道の専門家の講演などによつて一層健康の重要な點についての強調をはかるべきことである。

身體検査表の通知

定期的の身體検査書の報告によつて、幼児の身長、體重などの有様を同年令のものの標準數との比較などによつて、こ

の年令期の身長、體重の發育の度に異常の有無をしり、これ等によつて病氣を未前に豫防することも出来るものである。又身長體重を月々に調査し、そのグラフを保育室にかかけて幼児が自身でこの表を見て、自分の成長の有様を見ることも一つの方法でもあろう。

(0) (四五頁より)

日常生活に人手が要するが、時々自分でする。

好き嫌いがある。

一人で登園するが道草をする。

氣がむくと片附ける。

物は興味のある時だけ大事にする。

お金で買う興味がある。

(1)

日常生活にいつも人手がいる。

用便を道にする。又度々しくじる。

いつも遊びつばなし。

物を忘れたり、失したりする事が多し。

(2)

日常生活に人手がいる。

清潔にされることを嫌がる。

夜尿症がある。

送り迎えが必要。

危険な振舞が多い。